

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和7年1月24日 第40号

とどかない

朝やロング休憩、昼休みなど大縄をもって跳び合う風景が冬の空とよく似あいます。高学年児童が低学年児童にその技を伝授するのも、暖かい感じになってしみじみします。

ところで、先日、棋士昇段試験が行われました。

西山朋佳女流三冠が将棋のプロになるための五番勝負最終局が行われました。少し解説をしますと、将棋のプロになるには、奨励会という下部組織に入門する必要があります。そこで将棋を戦い三段まですすみ、既定の成績を収めると四段昇進。晴れてプロの棋士ということになります。

西山三冠は、この奨励会では勝ち上がりせず、四段になれませんでした。女流の世界で好成績を収め、男性棋士との勝負にも一定の成績を収めたので、四段再挑戦の五番勝負が組まれたのでした。

相手は新鋭の四段棋士。若手のばりばりです。

第一局に勝利し、俄然盛り上がりましたが、二局三局と敗退。後のなくなった状態で第四局に勝利し最終局でした。

将棋という勝負は、厳しいもので、『負けたな』と思ったほうが「負けました」と申告しなければなりません。その瞬間、すべてがなくなっても投了ということをしなければならないのです。

第五局、最終局面を前に西山三冠は、投了しました。

名人クラスの棋士がAIに勝てないのが普通に認知される現代。

女流棋士が四段を目指した歴史も分厚くなってきている今でも、なかなか女流棋士が四段になれない。男と女の違いはどこにあるのか、そんなことを考えた大一番でした。